

長野県社会福祉士会 NEWS

第208号
2025/5/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 吉澤 利政
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacs.jp HP▶<https://nacs.jp/>

中期ビジョン2025の概要	1
東北信地区セミナー	2
中信地区セミナー	3
南信地区セミナー	4
長野県社会福祉士会 地区総会について	5

contents

特集 『社会福祉士だからこそ読んでほしい！ おすすめのこの一冊』	6~7
リレーエッセイ	8
信州ぐるっと!!	8
編集後記	8

中期ビジョン2025の概要

大塚 柳太郎（中期ビジョン作成プロジェクトチームリーダー）

今回の中期ビジョン作成プロジェクトチームは会長、元会長、事務局長、4地区から選出されたメンバー、元リーダー、元サブリーダーの9人で構成され、2024年8月から計11回のオンライン会議を開催したり、メールでの意見交換を実施したりしながら、試行錯誤を重ねてきました。前回の中期ビジョン2020の成果や課題を分析しながら、4つの価値(社会福祉士の存在価値・社会福祉士会会員である価値・社会福祉士会を運営する価値・社会福祉士会の存在価値)をさらに高めていくために、そして魅力ある職能団体としての長野県社会福祉士会を目指していくために、必要と思われる取組み内容と成果となる指標をまとめました。ご承知のとおり、前回の中期ビジョン2020の内容が素晴らしく、取組みの項目などが多岐にわたり、自分たち社会福祉士の実践すべき活動を具体的に示して下さいましたが、その分、ボリュームが大きく、中期ビジョンとしての全体を理解することが難しかった側面も挙げられました。今回の中期ビジョン2025は、なるべく読み手に伝わりやすく、分かりやすい内容を心がけましたが、それでも難しく思われる内容もあるかと思います。それは、自分たち社会福祉士の活動や求められる責務が複雑であるゆえんだと思います。

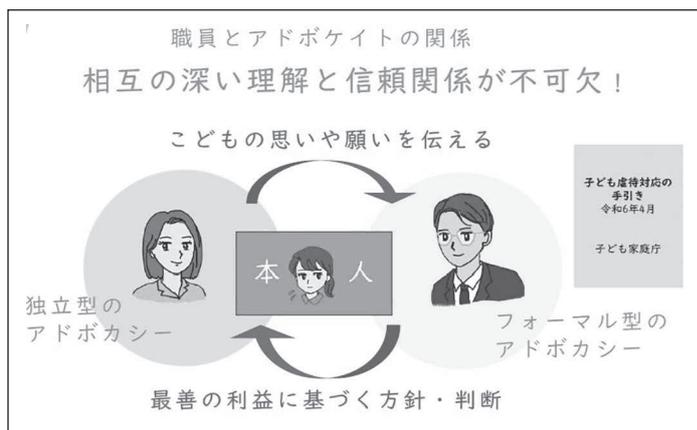
中期ビジョン2025の冊子について、表紙は2020と同じデザインにしました。これは、この表紙を見たら

中期ビジョンなのだと想起していただくためです。そして、中期ビジョンの基本構成である4つの価値が取組みとともに独立しているわけではなく、それぞれの取組みが複数の価値と重なり合って、それが価値を高める好循環へとつながることを計画の全体像として図にまとめてみました。具体計画では、取組み内容と成果となる指標について、実施主体・評価者を各委員会や地区のように明確に表記したり、それぞれの価値を実現するための目標に「私」や「私たち」という主語を入れたりして、他人ごとではなく自分のこと、自分たちのこととして意識していただくように表記しました。

これからの5年間、中期ビジョン2025を実施・評価しながら、社会情勢とともに変化する県民の課題に向き合う中で、迅速かつ柔軟に対応できることが専門職としての社会福祉士に求められます。それは、多様な業務・職種を担う社会福祉士同士の連携はもちろんのこと、多分野のさまざまな専門職との連携・協働も必要不可欠です。そのためには安定した会員数の確保、会員一人ひとりの技量・力量の向上から、魅力ある職能団体として長野県社会福祉士会そのものが成長していくことを目指す必要があります。中期ビジョン2025は一つの道標として皆さまに寄り添いながら、取組み内容の実践を通して、ともに一歩ずつ前進できることを願っています。

東北信地区合同セミナー「未来の社会を守る～『人権』と『聴く』を学ぶセミナー～」は2月15日、リモート開催。両支部あわせて72人が参加した。

前半は「長野県委託事業 こどもの意見表明等支援事業から学ぶ」をテーマに、曲淵紀子会員が同事業について説明。後半のパネルディスカッション「聴かれてきたの？『子どもの声』」では、社会的養護経験者、児童養護施設職員、スクールソーシャルワーカーをパネリストに、①子どもの意見表明がうまくいかなかった事例、②うまくいった事例、③大人や社会に対して言いたいことーについて話し合った（ファシリテーターは佐藤もも子会員）。



講演 「長野県委託事業 こどもの意見表明等支援事業から学ぶ」

曲淵 紀子 会員（こどもの意見表明等支援プロジェクトチームメンバー）

2024年4月に改正児童福祉法が施行となり、「児童相談所等は、入所措置や一時保護を行う際、子どもの意見や希望を考慮して対応する。都道府県は子どもが意見を言いやすい環境や権利を守るための体制を整備する」とされた。これを受け、同年同月、長野県社会福祉士会は「長野県こどもの意見表明等支援事業」を受託した。「子どもの権利擁護の実現」に向け、9名からなる推進プロジェクトチームを始動。社会的擁護が必要な子どもたちの「もやもや」や「真の思い」をアドボケイト（意見表明等支援員）が聴き取り、受け止め、言語化し、子どもたちが権利の主体となることができるよう活動をしている。実践では「子どもの最善の利益」と「子どもの意見の尊重」とが激しく拮抗する難しさが伴う。そして、リスクの高い環境から子どもを守るため、関係者への「子どもの真の思い」の伝え方にはより慎重さが求められる。児童相談所や施設、里親等とアドボケイト間のさらなる相互理解や信頼関係構築、アドボケイトの養成と人員確保が今後の課題である。

パネルディスカッション 「聴かれてきたの？『子どもの声』」

パネリスト：阿藤 創造 さん（社会的養護関係者）

家庭の代替機能として一緒に生活し、児童相談所や親御さん・学校と連携して子どもの支援をしている。「どうしたい？」と聞いても意見表明は難しい。丁寧な説明や選択肢を示すことが、支援する側の工夫のしどころ。支援者は失敗しない道を勧めがちだが、失敗も許される・モラトリアム期間を認めることのできる環境づくりが大切。

パネリスト：植田 みのり さん（若者（社会的養護経験者））

小学校の先生に「未成年が家に一人という状況を見過ごす訳にはいかない」と言われ一時保護所に入ることを決めたが、私物は持ち込めない等ルールが厳しく、辛い時間が無限に感じられた。母が退院したことで一時保護所を退所し、「これで終わる」と思ったら、その後も辛く…。今は経験者として10代の子の悩みを聴いたり、曲淵さんにつないだり。アドボケイトが進展していることに触れ、救われなかった自分の傷が癒える気がする。

パネリスト：天野 みちる さん（スクールソーシャルワーカー）

相談支援では、こどもの思いを聴くことを大切にし、こどもの意見表明支援に対して日々工夫している。支援者が考える「子どもの最善の利益」と「こどもの声」として表出される本人の思いが異なり、その間で葛藤することも多い。自分の思いを言葉にしにくいこどもの話を聴き、本人の代弁者として周囲の大人にその思いを届ける中で、対話の大切さを強く感じている。

ファシリテーター：佐藤 もも子 会員（社会福祉協議会相談員）

相談の実践では、親子の孤立や社会とつながっていない状況を肌で感じた。子どもにとっての幸せは、大人の考える幸せとは違う可能性があることを前提に、子どもの意見や考えを捉えることが大事になる。子どもの発達や年齢にあわせて情報を届けて、さまざまなメニューから本人が選択できるようにすることが大切。

2025年2月15日、塩尻市市民交流センター（えんぱーく）において、強度行動障がいをテーマに、オンラインと対面による約70人の参加者とともに、中信地区において、強度行動障がいの支援に関わっている西村昭太会員（ケ・セラ社会福祉士事務所）、中村公樹会員（障がい者地域サポートセンターさんぽ）から事例をもとにした現状や課題を発表いただき、強度行動障がい児者への支援について、それぞれの立場から考える契機となりました。

質疑応答のなかで、当事者家族からの提言や関係する支援者団体の紹介や実際の支援における課題、今後の対応について、活発な意見が出されました。



報告 ①

西村 昭太 会員（ケ・セラ社会福祉士事務所）

強度行動障がいの大前提は「後天的なものである」ということである。重度の知的障がいと自閉症の傾向が強い人が発症しやすいといわれている。誤学習の連続の先に発症する。日々のストレスの積み重なりがあるとき、どさっと落ちることで症状が出てくるといわれている。症状として、破壊行為や自傷他害が顕著にでる。構造化され見通しのある生活の中で改善される場合もあるので、障がいだから治りませんと諦めるのではなく、アセスメントをしつくすということがとても大事になる。

強度行動障がいがある人を社会がつくり出さないためには、支援者はもちろんのこと学校や行政、ご家族がメカニズムを理解し、協働して環境を調整し続けることが大事である。またストレングスに着目し、変化するということを理解しアセスメントをし続け、答えを探究し続けること、家族を含めた支援者を孤立させないようチームでかかわること、一面的ではなく全体的な視点で捉えられるよう研鑽を積むことが大切である。



報告 ②

中村 公樹 会員（障がい者地域サポートセンターさんぽ）

相談支援現場からは、障がい者児童入所支援施設から新たな住まいを探し、重度訪問介護を導入しての単身生活を経て日中支援型の共同生活援助に移行した実践報告である。環境の変化で本人が落ち着かず、脱衣、大声、噛みつきがあったが、どのような場面で噛みつくのかと行動を分析し、行政とも連携して本人への関わり方を見直していった。関わり方が変化し、2年後には衣類を着ることができ、靴下、スリッパを履けるようになった。ポジティブな経験が支援者の中で生活を豊かにしたいという思いになった。

「関わり方で行動障がいは変わる」そのために大切なことは、本人理解を深めること。対処ではなく行動の分析を大事にし、失敗を支援者全員で受け入れること。全員でどうすれば良いかを考えて、本人と一緒に成長することである。行動障がいがあるからこそ風通しの良い環境づくりを意識し、時間をかけて意見交換をすることをこの先も支援に生かしていくと締めくくった。

2025年2月22日、伊那市の「福祉まちづくりセンターふれあい～な」を主会場とし、「地域の中で共に生きるために～長野県西駒郷すずらん棟の取り組み～」をテーマに、オンラインと対面によるセミナーを開催した。長野県社会福祉事業団長野県西駒郷の宮田信子会員からすずらん棟の取り組みの紹介がされ、グループワークを通じて、共に生きるためにできること等の意見交換を行い、学びを深めた。

会場参加者は約22人、オンライン参加者は42人。



講演 「地域の中で共に生きるために」 ～長野県西駒郷すずらん棟の取り組み～

宮田 信子 会員（長野県社会福祉事業団長野県西駒郷）

西駒郷は平成16年に「西駒郷基本構想」が作成され、大きい柱として5年間で250人の地域生活移行が示された。これまで300人を超える方が地域生活移行を実現し、現在入所者は90人である。

平成29年「西駒郷あり方検討会」報告書にて県立施設の担う役割がまとめられ、強度行動障がいを持つ方の支援として県立施設がセーフティーネットの役割を果たしながらも、各地域で強度行動障がいの方の暮らしを支える必要性が示された。

令和6年8月6日に「強度行動障がい者専用棟」として、すずらん棟が竣工した。すずらん棟は「強度行動障がい者を有する方の生きづらさを軽減するため、それぞれの特性に応じた支援・環境の再構築を行い、再び地域での『望むくらしの実現』を目指す」ことと「地域生活が困難となった方を、一時的に受け入れるセーフティーネットの役割」を設置の目的としている。

すずらん棟は定員5人、短期入所2人で、最大2年間受け入れる。有期限、有目的（利用後の地域生活を視野に入れる）としている。対象者は支援困難とされる方で利用後の生活の方向性が明確になっている方となっている。

すずらん棟では、支援の基本はTEACCHプログラムの考えに基づき、見通しをもって安心できる環境を整えていく。機能的アセスメントを行い、本人にとってのバリアフリーの環境を目指している。また、地域支援チームとも連携して支援を行い、移行後もアフターケアを行う。人材育成として先進地長期派遣研修を行い、行動障がいアドバイザーを配置している。

地域の中で共に生きるために、強度行動障がいの方が暮らししていくためには、周りの配慮が進み安心していられる場所が増えることや、地域で孤立しないように事業所、支援者、家族を支える仕組みが大事となる。それぞれがつながり、実践しながら育っていくことが大事になる。このすずらん棟の運用をきっかけに、地域の課題解決への取り組みが加速され、長野県の障がい者プランである、だれにでも居場所と出番がある、生きる喜びを感じることでできる暮らしの実現、そんな長野県にしていこう。



長野県社会福祉士会 地区総会について

2025年2月15日と22日、県下4地区において地区総会が開催されました。今年度の事業報告、次年度の事業計画ならびに役員の改選に伴う次期役員候補者の承認等を行いました。また、各地域において活発な活動と自己研鑽ができるよう会員間での意見交換等を行いました。

【東信地区総会】

2月15日、オンライン開催。東信地区会員総数326人に対し、過半数の委任状・出席者があることが確認され、2024年度事業報告、2025年度事業計画、次期役員の報告が承認されました。西澤支部長より、本会の中期ビジョンに基づく支部の活動方針とともに、2025年度東信地区が主担当となる定時総会と福祉まるごと学会が6月14日(土)に開催されることが発表されました。

当日は、多くの会員の皆様にお会いできますことを楽しみに、東信地区役員一同準備をしております。

【北信地区総会】

2月15日、オンライン開催。会員総数323人のうち、本人・委任状合わせて176人が出席した。

総会では、2025年度の地区事業計画、役員選出案などが承認された。また、北信地区では昨年末の会長声明にある高齢者施設での横領事件のほか、社会的孤立や生活困窮に起因すると思われる痛ましい事件が発生していることから、権利擁護、孤立対策等について社会福祉士会として地域へのリーチアウトなどをどのように行っていくか考える場を設けることが確認された。

【中信地区総会】

2月15日、中信地区セミナー後に、オンラインと対面により開催された。中信地区は、会員317人に対し、会場出席39人、委任状の提出が、126人の合計165人にて総会成立の要件を成立した。

議案では、2024年度の活動報告と2025年度の活動計画案、また2025～2026年度の中信地区役員及び各委員候補者の選出案について、採決が行われ、いずれも賛成多数で可決された。2025～2026年度の中信地区役員及び各委員候補者については、ぱとなあながの運営委員会、ぱとなあながの継続研修部会の追加候補者もあわせて承認された。なお、各種委員会の欠員があるため、引き続き、追加の委員を募集し、年度途中でも追加選出を行う。ぜひ本会地区の運営にご参加・ご協力をいただきたいと押田支部長からのお願いがあった。

【南信地区総会】

南信地区総会は、2月22日午後4時からハイブリット形式で開催された。地区会員数291人の内、154人（会場及びオンライン出席35人、委任状119人）が出席して総会は成立した。

中村正人支部長より、2024年度の事業報告、2025年度の事業計画（案）が示された。引き続き、各ブロック年2回の学習会開催の機会を通じて、社会福祉士としての資質向上と会員間のネットワークづくりを図るという事業計画（案）を賛成多数で可決した。

また、地区役員の改選にあたり、現役員・委員の退任および次期役員・委員の紹介が行われた。南信地区は、勝又裕紀新支部長を中心とした新たな体制で2025年度の地区活動に取り組んでいくこととなった。



『社会福祉士だからこそ読んでほしい！ おすすめのこの一冊』

東信 地区

氏名：田丸 一成
所属：社会福祉法人
みまき福祉会

<自己紹介・仕事内容など>

私は4月で開所30年を迎える東御市の社会福祉法人みまき福祉会の法人本部で勤務しています。地域福祉の要となる社会福祉法人で、経営企画や事業所支援など、法人全体の運営が円滑に進むようサポートしています。職員や地域の声を大切にしながら、地域のために、よりよい福祉サービスの提供につながる仕組みづくりを目指しています。

北信 地区

氏名：竹前 真美子
所属：社会福祉法人
須坂市社会福祉協議会

<自己紹介・仕事内容など>

須坂市社会福祉協議会では、現在は須高地域成年後見支援センターで、成年後見制度に関する相談や研修会の企画及び日常生活自立支援事業などの業務に携わっています。



本の題名：正欲
著者：朝井 リョウ
出版社：新潮社

<本の紹介>

小説『正欲』は、社会の「普通」や「当たり前」に馴染めない人々の生きづらさを描いた作品です。ある事件をきっかけに、異なる価値観を持つ人々が交錯し、それぞれが抱える孤独や葛藤が浮き彫りになります。私たちが無意識のうちに持つ偏見や「正しさ」の押し付けが、どれほど他者を苦しめるのかを問いかける、深く考えさせられる一冊です。

<社会福祉士としてオススメする理由>

社会福祉士として、多様な背景や価値観を持つ人々と関わる中で、「普通」や「正しさ」とは何かを考えさせられる場面が多くあります。本書は、社会の多数派に属さない人々が直面する生きづらさや、無意識の偏見がもたらす影響をリアルに描いています。自身の支援が、想像できる範囲内の「常識」や「正しさ」の押し付けになってはいなかったか。他者の価値観を尊重し、その人にとっての最善の支援を考えるために、ぜひ読んでほしい作品です。



本の題名：お守りのことば
著者：松浦 弥太郎
出版社：星雲社

<本の紹介>

言葉とは何か。そう聞かれたら、言葉はお守りと答えます。つらいとき、困ったとき、どうしたらよいかわからないとき、もう駄目だと思ったときにも、寄り添って背中を抱いてくれたり、叱ってくれたり、はげましてくれるお守りです。(本文より)

ていねいな生き方を重ねてきた著者が贈る、あなたの心に寄り添い背中を押す155の言葉の本です。(帯より)

<社会福祉士としてオススメする理由>

このお話をいただいて、近所の書店で選んだ本です。社会福祉士として仕事をする中で、時に理不尽な批判を受けたり、通常の生活ではありえない言動など言葉で傷つく場面がたくさんあります。一方、励まされる言葉もいただくこともあります。この仕事は、護身術を身に着けることも大切です。この本は1ページに1つの短い言葉と解説で、どこからでも読めます。あなたのお守りとなる言葉がありますように。

インターネットで検索すれば、知りたい内容をすぐ得られるようになった昨今ですが「本からしか得られないもの」もきっとあります。読書にはストレス解消の効果もあるそうです。興味関心を広げるために…。気分転換し新しい視点を得るために…。働く地域や分野もさまざまな会員から、オススメの一冊を紹介いたします。

中信 地区

氏名：太田 美貴
所属：社会福祉法人
 中信社会福祉協会

<自己紹介・仕事内容など>

職場は総務課に配属となり2年目を迎えました。研修企画、広報等をおし、法人内すべての職員がいきいきと働くことができるよう奮闘しています。

現在、未就学児の育児真っ只中です。活字を読むのは絵本ばかりになりました。



本の題名：
かっても
まけても
いいんだよ
著者：
オーレリー・シアン・
ショウ・シーヌ
出版社：主婦の友社

<本の紹介>

フランスの乳幼児セラピストが考案した、ソーシャルスキルを学ぶシリーズの1冊です。今回のテーマは「うまくいかないとき、イライラしないでやっていく方法」。主人公ガストンと一緒に、やっかいな気持ちに向き合う心を育てていきます。

<社会福祉士としてオススメする理由>

ガストンのたてがみは気持ちの違いによって色が変化します。気分を損ねたとき、一色に変わるのではなく、「悔しい」「不安」「恥ずかしい」等、いろんな色（感情）が混ざります。表面的に見えている感情だけでなく、本質を紐解くことが「他者の理解」に重要だと感じました。

対人援助職では自分の素の感情を抑えたり、役割を演じなければならない場面も多々あります。この本の対象年齢は4歳からですが、大人も読んでいて「ハッ！」とさせられました。

南信 地区

氏名：吉沢 弘子
所属：医療法人円会
 介護支援まどか

<自己紹介・仕事内容など>

市田柿で有名な高森町に生まれ、職場も高森町内です。井の中の蛙のまま、楽しく生活しています。ケアマネジャーと成年後見の仕事の中で日々、理不尽な社会に腹を立てながら自身の無力を感じ、要支援者に教えられ学ぶ毎日です。多くの仲間がいてくれることが力強い支えになっています。



本の題名：思考の整理学
著者：外山 滋比古
出版社：筑摩書房

<本の紹介>

インターネット全盛の現代、AIに思考までも支配されそうに感じられ不安に駆られます。本書はそういう時代に如何に丁寧な思考が大切であるか、人間の思考がどのような環境で深まっていくかを語りかけてくれます。書いてみる、寝かせる、話す、忘れる、時間をかける。ハウトゥーではなく、人間の脳の中で、心の中で如何に考えが深まり整理されるか、納得させてくれます。

<社会福祉士としてオススメする理由>

社会福祉士の仕事はエンドレスに続く仕事だと感じる日々です。一つの事例が一度は落ち着いてもまた、燻って大きな火災となって戻ってきます。同時に何事例も抱えることも常です。頭の中にはあらゆる感情が沸き上がりますが冷静に対応することが常に求められます。そういう時本書を頭の隅に置くと自身だけでなく相手の思考までも整理して受け止める助けになります。

「地域を考えるとということ」

高砂美織（塩尻市社会福祉協議会）

私は社会福祉協議会に所属し、地域づくりに携わっています。まだまだ経験が浅く未熟な私ですが、たくさんの方との出会いの中で地域福祉を考えてきました。

その中で最近印象に残るできごとがありました。空き店舗を住民の力で地域コミュニティ拠点として再生させた地域があります。その活動を引っ張ってきた方が私に言いました。「限界集落だなんて失礼しちゃうよね。だって私たちこんなに楽しく生活してるんだから」。私は、はっとしました。確かにその地域は高齢化率50%超。数字だけでみたら限界集落です。「高齢化」という大きな課題感だけで地域を捉え、地域を知ったような気になることは簡単。でもそこには知ろうとしなければ知ることのできない「一人ひとりの暮らし」があって、そこにこそ地域づくりのヒントが隠れている。個々の暮らしから地域を捉えていくことを忘れてはいけないと感じたできごとでした。

私たち社会福祉士には、誰もが幸せに暮らすことのできる社会を目指す役割があります。でもそれはどこか漠然としていて、一生かけても実現できないかもしれない、とも思います。ただ「顔の浮かぶあの人」が楽しく暮らし続ける方法なら考えることができる。その実践をあちこちで積み重ねることで社会を変革していく。周りにたくさんの社会福祉士の仲間がいることに感謝です。



*次号は、上田NPO法人場づくりネット 関口 葉子さんにバトンタッチします。

信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

幸せな地域づくりに貢献できる社会福祉士の養成

今村篤史（松本大学）

松本大学では、総合経営学部観光ホスピタリティ学科の学びの一領域として社会福祉士の養成に取り組んでおり、同学科で学んだ社会福祉士を地域に輩出してから20年が経ちます。学生のほとんどが県内出身者であり、地域に貢献したいとの思いを持った学生が多いことが特徴です。

同学科では、「行ってよし、住んでよし」の地域を考え、地域で学び、地域で実践することを大切にしており、社会福祉だけでなく、観光、地域振興、地域防災の4つのアプローチから幸せな地域づくりに貢献できる人材を育成しています。そのため、学生の中には社会福祉士×社会教育士、社会福祉士×防災士の資格を取得する者も多く、多角的に地域を捉える力を養成していることが同学科の特徴であり、強みです。

地域福祉の推進が叫ばれ、地域共生社会の実現が図られている今日において、それらに貢献できる人材を地域に還元することが養成校としての使命と考えております。これからも地域の皆様に学ばせていただきながら、地域に貢献できる人材としての社会福祉士の養成に取り組んでまいります。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<https://nacsw.jp>）をご覧ください。

日 時(曜日)	事業名・研修名	会 場	備 考
6月14日(土)	定時総会・福祉まるごと学会	オンライン	
6月21日(土)	基礎研修Ⅱ・Ⅲ 第1回	塩尻総合文化センター	
7月6・26・27日	社会福祉士実習指導者講習会	敬老園法人本部 講堂	
7月13日(日)	『ソーシャルワーカーの使命・専門性・可能性』を考えるフォーラム	ハイブリッド形式	講師：べてるの家メンバー

◎ 入会状況（2025年3月末現在） * 会員数：1,212人 入会率：23.27% 人口10万人あたりの会員数：60.48人

編集後記

地区総会が開催され、役員改選に伴い次期役員候補者が承認されました。これまでご尽力頂いた役員に心より感謝申し上げます。また、新体制に参加される皆さんと一緒に活動ができることをうれしく思います。新年度も各地区の勉強会やまるごと学会、研修会で共に学びを深めることができる機会を楽しみにしています。

(Y.I)